

太平洋空軍航空郵便中隊 ホリデーシーズンに人を繋ぐ *PACAF AIRPS keeps people connected during holidays*

December 10, 2021

By Tech. Sgt. Christopher Hubenthal
374th Airlift Wing Public Affairs

ホリデーシーズンに入ると、特に海外便の業務が活発になることは周知の事実だ。アメリカへ、またアメリカから愛する家族に荷物を送ったり、軍人たちはプレゼントを注文したり、ホリデーセールを利用したりして、多くの人がホリデーグリーティングの品や手紙を送る。

太平洋空軍航空郵便中隊は、横田にある太平洋空軍航空郵便輸送小隊と、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、ハワイ、南極など11カ所にある3つの分遣隊の運用を管理し、地域全体で35万5千人以上の利用者にサービスを提供している。

太平洋空軍航空郵便中隊司令のメロディ・ジョーンズ中佐は、「航空機で輸送される郵便物は、我々は何らかの形でそれに関わっており、我々の業務によって郵便物が郵便局に届いている。郵便局との主な違いは、郵便局が顧客に対応するのにに対し、我々は郵便物に関わることだ」と話す。

太平洋空軍航空郵便中隊は、ホリデーシーズンに通常の2~4倍の量の郵便物を受け取ることができるが、運用のテンポが上がっても任務の速度が下がることはない。

太平洋空軍航空郵便中隊輸送フライト監督のマックス・ゴメス曹長は「ミッションを成功させるためにチームが献身的であることを誇りに思う。“郵便コントロール・アクティビティ”というチームがあり、毎日成田空港まで車で移動し、航空便の郵便物を届け、また受け取って来ている。航空便ターミナルチームは運用のアンカー（中心）であり、常に郵便物の処理を担い、米国内、米国外を問わず、最終目的地に届けられるようにしている」と説明した。

その小隊チームは、1日に164マイル（年間5万9,800キロ）を運転して空港と横田の間を往復している。ホリデーシーズンには、太平洋空軍航空郵便中隊輸送小隊は、これらの場所まで運転し、複数のトラックでそれぞれ1,000個以上のパッケージを積み込むことが可能だ。

30年間に渡って、この中隊の任務を担ってきた一人の日本人従業員にとっては、この忙しさは心配の種にはならない。

「基本労務契約従業員（MLC）や軍人を含め、すべての従業員は、この時期が非常に忙しいことを分かっている。我々はそれに備えて、より多くのトラックと配達時間を準備している。このオフィスがどんなに忙しくても、私たちは常に協力してどんな仕事量にも対応している」と太平洋空軍航空郵便中隊の郵便仕分け担当の石井茂さんは語った。

太平洋空軍航空郵便中隊は、日本の税関と連携して、郵便物の輸送、流通、管理の過程を支援する重要な役割を担っている。

「MLCの日本人従業員はこの職場で重要な役割を果たしている。ここには、成田や羽田からさまざまな荷物が届くが、例えばそれらの荷物を三沢基地に配送するためには、日本の税関が荷物を検査しに来なければならない。ここで働く日本人従業員は、そのスタッフに対応する必要がある」と石井さんは言う。

同チームは、出入国する荷物が安全に保管され、処理の過程で適切にラベルが貼られているかを確認する。そしてプレゼントや小



包が予定通りに届くよう、連携して仕事に取り組んでいる。

太平洋空軍航空郵便中隊の郵便物仕分け係プレシャス・モラレス一等空兵は、「我々は横田基地で、日本に到着した郵便物に最初に触れる。飛行中やその他の理由で破損した荷物を受け取った場合は、時間をかけて破損箇所を確認し、梱包を修復して郵便局に届けている」と語る。

モラレス一等空兵は、軍人やその家族に荷物を届ける仕事をしている際の自分の経験を振り返り、チームの日々の仕事に感謝しているという。

モラレス一等空兵は、「家族と離れて暮らすのは初めて」だと話し、「特にホリデーシーズンと一緒に過ごすことは難しい。日本の物を詰め込んだ小包を送ることができ、家族は私からの届け物を予定通りに受け取れたことを喜んでいて。自分が仕事をする上で、それぞれの側が郵便物を送ったり受け取ったりできるのは、安心感と幸福感を与えてくれる。それが私たちの繋がりで」と続けた。

同中隊はシーズン中に、友人や家族に郵便物を確実に届けるために24時間体制で働いており、その努力を通してチームとの絆を深めた空兵もいる。

「私たちはお互いを兄弟姉妹のように.....むしろ家族のように思っ接している。我々にはチームワークがあり、誰かが助けを必要とすれば、皆がそこにいる」とモラレス一等空兵は言う。

接受国の従業員と米国の軍人との間の結束は、仕事上で成長し、任務を成功させるために重要だ。

ゴメス曹長は「素晴らしいダイナミクスだ。日本とは素晴らしいパートナーシップと絆で結ばれており、今後もその関係を強化していきたいと思っている。我々の多くは郵便局での経験がないままここに来ているが、日本人従業員が最初にOJTで教えてくれる。3年前にここに来て、ここにいるすべてのMLCの知識を学んだ。彼らは、若い空兵が尊敬し、技術を習得し、モチベーションを見習うことができる存在だ。彼らは任務を遂行することに専念している」と語った。

同中隊の分遣隊に近く、2つの国際空港と連携しているため、横田基地は地理的に太平洋空軍航空郵便中隊にとって理想的な場所だ。しかし、ジョーンズ中佐は、ミッションパートナーの協力がなければ、この任務は成功しないと語った。

「中隊内のチームワークだけではなく、装備即応中隊、群支援中隊、その他関係機関のミッションパートナーとのチームワークも重要だ。我々は海軍や韓国の海兵隊、そして陸軍と連携を図っている。空兵やMLCの中には、『これは自分一人でやる』という人はいない。皆が協力し合う」とジョーンズ中佐は言う。

軍人や友人、愛する人が贈り物や小包、手紙を送ったり受け取ったら、それは太平洋空軍航空郵便中隊チームのメンバーが送り手のメッセージが相手に届くように関わってよう。